



大分県立竹田高等学校
関東同窓会報

第26号

発行者・会長 佐藤映之
編集者・委員長 佐藤毅士
発行所・関東同窓会事務局
〒248-0025 神奈川県鎌倉市
七里ガ浜東 2-37-6
電話 0467-31-5715
FAX 0467-31-5715

印刷・佐伯印刷(株)

総会特集

平成十五年年度

関東同窓会総会開催

新会長挨拶

同窓の絆をさらに広げよう!



会長 佐藤 映之
(昭28卒)

平成十五年六月二十一日(土)、椿山荘オリエントの間に於いて二百十四名の会員が集い、今年の総会・懇親会が盛大に開催された。関東同窓会会員の皆様には益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は同窓会の運営に特別のご支援とご協力を賜わり誠にありがとうございます。

さてこのたびは長吉会長の後任として会長に就任致しました佐藤映之(新制高校第五期、昭和二十八年卒、久住町出身)でござ

ざいます。

就任にあたりましては昨年の暮、前会長より来る役員改選時に次期会長に推挙するのを受けてよう要請がありました。私ごとき無知無味な者が任に就くことははなはだ不適當と思ひ固辞致しましたが再度強く求められ止むなく浅学非才を顧みず重責を感じながらお受けした次第であります。何分にも不足者でございますが微力を尽したいと思ひますので、会員の皆様様の格別のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

我が関東同窓会は昭和六十二年春に結成され今年で満十六年を迎えました。初代、高官会長が東奔西走され磐石の基礎を築かれ二代目後藤会長(故人)、三

代目伊東会長、四代目長吉会長がそれぞれ時流に添って肉付けされ揺るぎない今日の立派な同窓会を構築されました。これもひとえに各役員、各委員会委員、学年幹事、そして当番幹事などスタッフの皆さんの会に対するボランティア精神の発揮、それに会員の皆様様のご理解と積極的なご協力の結果と確信致しております。

不肖、私は設立当時、企画委員長を仰せ付けられ、幹事長、副会長として非力ながら会の運営に参画させていただきました。ここに改めて新たな気持ちで取り組んで参る所存でございます。現在、会員数二千百余名、総会時の出席数過去三年、毎回超二百名、維持会員約四百名、広報紙(臥牛)年二回発行、名簿平成十四年全会員に配布、等々組織、財務、広報、そして年一回開催される総会、懇親会の内容が年々充実、設立以来順調に推移していると思ひます。

同窓会の趣旨は今更申し上げることもないのですが、会員が

母校の発展を共通の喜びとした絆をもち、いささかなりとも何らかの形で貢献することであり併せて「とき」は異なっても多感期に同じ学舎の窓より眺めた心象風景が共通の同士が何の屈託もなく触れ合うことにあると思ひます。

同窓会の良否は横軸と縦軸のより良い絡みであり横軸が同期会なら縦軸は先輩後輩の同窓会、縦、横の強い「絆」があつてこそ成り立ち運営は安定的に継続することにその意義があると思ひます。

私は基本的には先輩が蓄積されたノウハウを基軸として推進し、当面の課題として次の二項に力点をおき次に繋げていきたいと思ひます。①新卒及び若年会員の増強、②女性会員の積極参加促進。①は少子高齢化現象が進む中、若者の上京者が激減しており厳しい状況にあります。が少数であっても年次毎に地道に積み重ねていく、②は会員の構成からみて約半数が女性、総会時の出席比を四五%程度(前回三五%)に引き上げたい。又大先輩(高齢者)が気楽にご参加いただける方途はないか、模索したい。

何れも充足を図るには先ず参加し易い環境づくりが肝要と思ひます。幅広く老若男女が相集い和やかに交流できる姿こそ歴史ある伝統校、竹田高校にふさわしい同窓会と思ひます。



佐藤新会長より新役員を紹介...
ご声援の程を!!

プログラム

(総会の部)

- 11:30~12:10
- 1. 開会のことば
- 2. 会長あいさつ
- 3. 会務・会計報告
- 4. 監査報告
- 5. 新会長あいさつ
(新役員紹介)
- 6. 来賓あいさつ
- 7. 閉会のことば



新・旧会長の挨拶



ご来賓渡部校長先生の挨拶

フォトで綴る!!
第17回総会懇親会風景

大盛会の懇談会風景



プログラム

〔懇親会の部〕

12:20~14:30

1. 乾杯
2. 会食・歓談
3. アトラクション
4. 当番幹事引継ぎ
5. 「校歌」斉唱
6. 閉会のことば



当番幹事による「心温かい」受付

近隣高校同窓会長をお招きして
・県立高田高校(芹川様)
・県立三重高校(生野様) 他



例年にも増して盛り上がった「校歌と荒城の月の熱唱」



和やかな余興の一駒



お元気で本年度総会にご来席頂けた「故土居母校会長」をお偲びして

平成十五年度総会報告と 平成十四年度会務・会計報告



幹事長
用正 靖彦
(昭30年卒)

(一) 平成十五年度 総会報告

第十七回関東同窓会総会・懇親会が平成十五年六月二十一日(土)椿山荘で開催された。

冒頭、物故者八名の方々のご冥福を祈り黙祷を捧げたのち、総会に入った。

来賓として母校の渡部校長、故土居本校同窓会長、阿南参議院議員、堤大分県東京事務所長、本郷久住町長、姫野竹田商工会議所会頭、笹原高田高校在京同窓会会長、芹川高友会会長、立川東京豊工会幹事長、生野三重高校関東同窓会幹事長、朝倉三重農業高校関東同窓会幹事長代理がご臨席。

当日は天候にも恵まれ総勢二一四名の参加者が元気に集い、会の発展を祝した。

長吉会長の挨拶にはじまり、会務報告、会計報告、監査報告が行われ満場一致で可決された。

続いて渡部校長より母校の現況についての説明と土居本校同窓会長の挨拶のあと、来賓の紹

介が行われた。

今年には役員改選期にあたり、長吉会長より新しく会長に就任される佐藤映之氏(前副会長)が紹介された。佐藤新会長より新役員紹介に続き、同窓会運営にあたっての決意と会員への協力要請が述べられた。

今回退任された服部副幹事長には長い間お世話になりました。懇親会は当番幹事の古沢楯也氏(昭和37年卒)の司会で進行。小倉幸雄氏(昭和13年卒)のユ

ーモアあふれる乾杯で始まり、江戸太神楽、のこぎり音楽、くじ引きで会場はいっそう賑やかになり、最後は生野良友氏(昭和32年卒)のピアノ伴奏での校歌斉唱で一層の盛りあがりを見られた。

当日出席されなかった会員の皆様には本紙をお借りして以下平成十四年度会務・会計報告を致します。

(二) 平成十四年度 会務・会計報告

(1) 会務報告

●平成十四年四月十五日(月)

幹事会 於 学士会館

出席三三名

・総会・懇親会運営内容再確認
・総会・懇親会経費予算について

・平成十三年度収支状況説明
・維持会員及維持会費状況説明
・名簿改訂発行について

●平成十四年五月二十五日(土)
第十六回総会・懇親会の案内
状及び同窓会名簿、広報誌
「臥牛」発送 参加三三名

●平成十四年七月二十日(土)
第十六回総会・懇親会 於
センチューリーハイアット
当番幹事 S36年卒、S46年
卒が担当
開会、会長挨拶、会務・会計
報告、監査報告
来賓挨拶、乾杯、ビンゴゲ
ム
郷土特産品コーナー設置、出
席者全員土産

●平成十四年九月二十日(金)
総会・懇親会の反省会兼慰労
会 於 東ト協 あざみ野研
修センター 出席二三名
・第十六回総会・懇親会の総括
●平成十四年十月八日(金)
役員会 於 学士会館
出席九名
・秋の定例幹事会日程、議題に
ついて

●平成十四年十一月二十九日(金)
幹事会 於 学士会館
出席二四名
・第十六回総会・懇親会の結果
報告
・第十七回総会・懇親会に向け
ての日程確認
・維持会員状況報告
・名簿発行協力金報告
・名簿配布返品状況と名簿の訂
正について

●平成十五年二月十四日(金)
役員会 於 学士会館
出席九名
・役員改選年度にあたり新役員
候補について
・春の定例幹事会日程、議題に
ついて

●平成十四年九月二十日(金)
総会・懇親会の反省会兼慰労
会 於 東ト協 あざみ野研
修センター 出席二三名
・第十六回総会・懇親会の総括
●平成十四年十月八日(金)
役員会 於 学士会館
出席九名
・秋の定例幹事会日程、議題に
ついて

●平成十四年十一月二十九日(金)
幹事会 於 学士会館
出席二四名
・第十六回総会・懇親会の結果
報告
・第十七回総会・懇親会に向け
ての日程確認
・維持会員状況報告
・名簿発行協力金報告
・名簿配布返品状況と名簿の訂
正について

●平成十四年九月二十日(金)
総会・懇親会の反省会兼慰労
会 於 東ト協 あざみ野研
修センター 出席二三名
・第十六回総会・懇親会の総括
●平成十四年十月八日(金)
役員会 於 学士会館
出席九名
・秋の定例幹事会日程、議題に
ついて

●平成十四年十一月二十九日(金)
幹事会 於 学士会館
出席二四名
・第十六回総会・懇親会の結果
報告
・第十七回総会・懇親会に向け
ての日程確認
・維持会員状況報告
・名簿発行協力金報告
・名簿配布返品状況と名簿の訂
正について

●平成十四年九月二十日(金)
総会・懇親会の反省会兼慰労
会 於 東ト協 あざみ野研
修センター 出席二三名
・第十六回総会・懇親会の総括
●平成十四年十月八日(金)
役員会 於 学士会館
出席九名
・秋の定例幹事会日程、議題に
ついて

(2) 会計報告

(表参照)

会計報告は平成十五年四月十日に得丸大典監事が監査を実施し、適正かつ正確である旨の報告があり、総会において承認可決されました。

尚、総会にご出席頂きました、土居平治本校同窓会長が平成十五年八月六日急逝されました。心からご冥福をお祈り致します。

会計報告

収支計算報告書

(平14.4.1から平15.3.31まで)

1. 収 入		金額
① 維持会費	会費	2,002,850円
② 維持会費	会費	1,592,000円
③ 維持会費	祝儀	60,000円
④ 維持会費	作成協力金	922,080円
⑤ 維持会費	取利	11円
⑥ 維持会費	雑収	54,000円
計		4,630,941円
前期繰越計		996,627円
合 計		5,627,568円
2. 支 出		金額
① 総会名簿	費	2,047,454円
② 総会名簿	費	371,085円
③ 総会名簿	費	809,362円
④ 総会名簿	費	368,358円
⑤ 総会名簿	費	74,222円
⑥ 総会名簿	費	28,777円
計		3,699,258円
次期繰越計		1,928,310円
合 計		5,627,568円
3. 次期繰越の内訳		金額
① 現 金		151,591円
② 預 金		1,776,719円
計		1,928,310円

上記の通り報告します。

平成15年4月4日
幹事長 用正 靖彦

監査報告書

監査の結果、この収支計算報告書は、適正かつ正確であることを認めます。

平成14年4月18日
監事 得丸 大典
監事 丸邊 大真

委員会報告

企画委員会便り

企画委員長 桑島 輝茂
(昭42年卒)

平成十五年六月二十一日(土)、
椿山荘オリオンの間に於いて第
十七回総会が二〇〇名以上の参
加を頂き盛大かつ無事に終了す
ることが出来ました。

次回第十八回総会は昭和三十
八年卒、四十八年卒の皆様に出
番幹事をお願いし、平成十六年
六月十二日(土)、場所は新宿
ホテルセンチュリーハイアット
で開催を予定しておりますので
会員の皆様奮ってご参加をお願
い致します。

当番幹事さんの多大なるご努
力によりここ数年二〇〇名以上
の参加が続いており、内容も充
実し大変盛り上がりしております。
若年層の皆さんも同窓の仲間に入
って頂き更に永続的に充実し
て行きたいものです。そもそも、
当番幹事制の意義は皆様に裏方
努力をご理解いただく意味でス
タートしたものです。

役割が終わったら「私は、知
らん」と言わないで、お元気な
間は出来るだけご参加、ご協力
を頂きたいと思えます。

同窓会に参加するとその会場
には、そこに竹田があり、それ
ぞれの故郷があり、懐かしい青

春の宝石箱の中に入るようです。
これから関東同窓会を楽しむ
【同好会】の様な事も今後考えて
行きたいと思えますので、皆様
のご意見をお寄せ下さい。

第十七回総会の当番幹事の皆
様大変お疲れ様でした。そして
誠にありがとうございました。
今後とも末永くご協力をお願い
いたします。

総務委員会の近況報告

総務委員長 西 誠
(昭30年卒)

関東同窓会の運営の全ての経
費は、維持会員の負担による維
持会費により賄われており、今
後の会の安定的な運営を維持し、
さらなる発展を目指すには維持
会員の増強は欠かせないところ
であります。

総務委員会のお役目の第一は
まさに維持会員の増強にありま
す。統括責任者である幹事長よ
り総会、幹事会等でお願ひして
いただいておりますが、会員の
皆様には、投稿の機会に広報を
通じてご支援をお願い申し上げ
る次第であります。

維持会員数の動向につきまし
ては、年二回開催される幹事会
で逐一報告させていただいてお
りますが、維持会費ご入金の際
帳をしながら、「皆様よりの貴重
な浄財を大切に扱わねばならな
い」との責任を感じます。
今一つ感じ入りますのは、総

会・懇親会の参加が思うに任せ
なくなつた先輩方よりの相変わ
らずのご支援の有難さでありま
す。紙面を借りまして日頃の御
礼を申し上げます。

最後に直前三カ年の「年代別
維持会費収納状況」を開示させ
ていただき、若手の奮起を促し
ます。

12年度	13年度	14年度
70歳以上		
44四五刊	四二五刊	六一五刊
60歳代		
九六五〇	九七〇〇	八〇五〇
50歳代		
四六〇〇	四二〇〇	四一五〇
40歳代		
八〇〇	八五〇	九〇〇
40歳未満		
三五〇	一五〇	〇

年度合計は決算上の維持会費
合計とは必ずしも一致しません。

名簿委員会の近況報告

名簿委員長 和田 剛
(昭34年卒)

名簿委員は三十四年(11回生)
卒一同が担当して二期目です。

現在の竹田高校関東同窓会員は
二千六百名、住所不明者が約一
割です。この方たちの所在入手
は役員等のご協力により、何名
か判明しました。入会登録、訂
正表は役員会で配布しています。
名簿作成の経緯について述べ
ます。パソコンを同窓会が購入

しましたが申し送りはワープロ
用フロッピーでした。パソコン
へ交換するのを市村君が連日連
夜の作業でエクセル化し、名前
等の確認で苦労されました。二
人で学年毎に編集訂正等により
やつと印刷し、役員会の席上で
関係者に配布、訂正を依頼しま
した。

返事の都度エクセルを訂正、
十四年二月委員で読み合せをし
ました。その後にも返事や訂正
がありました。名簿らしくな
り、平成十四年の総会に配布と
決まり、同窓会の充実と結束を
図るため全会員に配布しようと
長吉前会長の決断で役員一同賛
成され製本は印刷会社へ依頼が
了承された。名簿表紙の絵は阿
南氏の作品です。レイアウトは
印刷会社と話し合い役員会で決
定し名簿が完成しました。住所
等の訂正が寄せられその都度新
しくしています。訂正時「名前
にふりがな」郵便番号を忘れな
いで下さい。案内が会員皆様に
届くよう努力しています。名簿
作りには携った同級会を八月下旬
開催しました。

組織委員会の近況報告

組織委員長 後藤 猛士
(昭41年卒)

校友・交友・交遊―竹田高校ノ
第十七回目の同窓会も終え、
まもなく二十周年を迎えようと
する関東同窓会ですが、組織委

員会としては会員の拡大はもち
ろん、現会員の転居者の住所把
握さえ厳しい状況にあります。

とりわけ昭和四十八年卒業者
以降の卒業者の名簿把握がまま
ならず、今後の同窓会発展の大
きな壁に直面しております。

関東同窓会は郷里を共有し、
同じ青春を共有する校友と懐か
しいひとときを過ごし、そして
元気を頂き新たな交友と出会い
交遊を広げる私達の青春の集い
です。

この同窓会の維持発展のため、
組織委員会では各学年の再調査
を始めました。会員各自の卒業生
の情報、甥や姪の情報等をお寄
せ頂きたくお願い申し上げます。

広報委員会

広報委員長 佐藤 毅士
(昭28年卒)

広報委員会の一番大きな業務
は、竹田高校関東同窓会の会報
「臥牛」を発行することです。こ
の二、三年は年一回となってい
ましたが、佐藤新会長の強い要
望もあり、年二回発行を目ざし
ています。しかし委員は全員現
役の仕事を持っていらっしゃる方々ばかりで、原稿の依頼から、割付け、
校正、印刷、配布まで、大変な
労働になっていきます。

この状態を少しでも緩和いた
したく編集委員を募集していま
す。どなたかお手伝い下さいま
せんか。お待ちしております。

会員特別寄稿

竹田高等学校の現況



校長 渡部郁之助先生 (昭41年卒)

去る六月二十一日には、竹田高等学校関東同窓会総会にお招きいただき、心より厚くお礼を申し上げます。昭和四十一年本校卒で本年四月に母校に着任したばかりの私は、ご出席の皆様がご卒業以来今日までに重ねてこられた数々の社会的御貢献に触れることにより、本校が誇る創立以来百六年の歴史の重みを実感し、かつ、今後の学校運営のための大きな原動力を賜りました。そのことを全生徒・教職員に伝えた次第です。改めて感謝申し上げます。

さて、ここで皆様の母校の現況の一端をご紹介します。現在、校区内でも少子化が進み、生徒総数は六六一名、本県では中規模校です。かつての「多子化」時代に在学された皆様が、建設当時(昭和三六年)のままの現在の体育館のステージに立ち昔を想像になれば、千五百名を越える当時の全校生が一体

どのような状態でそこに集合していたのかと、当時を懐かしく回顧されることでしょうか。

その本校では、卒業生のほぼ全員が進学を達成し、豊肥地区の拠点校としての伝統を継承しております。その一方で、全国的に若者の学習意欲の低下が深刻化する中、本校でも個々の生徒のニーズに合った各種学習指導方法を積極的に導入し、教職員の叡智を更に結集し、創意工夫を凝らしております。

また、皆様の後輩達は、勉学に加え、スポーツ・文化活動などにも励んでおります。運動、文化関連で各々十一部と三同好会への加入率が九十%弱に達し、県下でも高率を誇っております。

「励む」と言えば、多くの皆様の脳裏に残る文化・体育祭の「臥牛祭」、その中の「ストーム」などは生徒の手作りで、今年も好評でした。また、冬季の恒例行事である「競歩大会」も予定されています。

このように、生徒が、学業に加え各種部活動・行事にも打ち込む姿がそのまま爽快な校風を醸成しております。「あいさつ励行」がその一つです。校内では行き交う者同士が気軽にあいさつを交わし、特に外来者には好印象を与えているようです。

私は、このような校風の維持を可能にしているもの一つに、本校が置かれた地域性を意識せざるを得ません。地域の皆様が

本校生に声を掛け、見守り、育てて下さっているということを実感しております。事実、私は地域の人々から時々電話を頂きます。「普通科の生徒がこんなことはするはずはないと思うが、念のため電話しますよ」「竹田駅でお宅の生徒さんから大きな声であいさつをされ、爽やかな竹田での滞在になりました」等々、建設的なご意見・感想等を頂きます。

さらに、地域の季節感漂う各種行事にも本校生がボランティアで参加します。六十名の器楽部員においては、本市が誇る作曲家滝廉太郎を顕彰する文化的行事に参加演奏し、雰囲気盛り上げております。私は、生徒ができるだけ地域と接触し、郷土に誇りを抱く体験をしながら、その結果、地域に育てられていることを実感することが大切だと考えております。

本校同窓会にも多大なご支援を賜っております。十年計画で本校生を海外に派遣し、異文化理解・体験をさせる「生徒海外派遣支援事業」がそれで、第六回目の今年度は、十名をニュージランドにある本校の姉妹校に派遣いただきました。彼等はその成果を本校伝統の「臥牛祭」で展示発表しました。併せて、十一月の同窓会総会の席上で体験をご報告し、多くの会員の方々と滞在経験を分かち合う予定です。

これからも、あらゆる意味ですばらしい環境にある本校から、郷土愛と幅広い視野を持つ「人材」、言い換えれば、グローバルに考え、ローカルに行動できる意欲的な若者が育ってほしいという、教職員が一致協力して努力いたします。皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

校歌

作詞 葛原しげる
作曲 小松 耕輔

一 暁早く そのかみの
臥牛城頭輝きし
朝日ぞ示す 我が前途
夕陽そむる 大阿蘇の
秘むるは 久遠の焔にて
竹高我等 意気高し

二 南に 祖母の 崇高を
北に 久住の 雄大を
清流稲葉 永劫の
旅路を続けてささやくは
清きを誓い 気を練れと

三 天地の冷氣 ころとこ
山紫水明類なし
神秘の鍵を 誰が握る
楽聖画聖 我らが師
等しくめでたりこの郷土
竹高我等 眉上がる



中学生の体験入学 (10月)



地域奉仕活動 (7月)



歓迎遠足 (4月)

土居同窓会長逝去



故同窓会長 土居平治 (昭27年卒)

上村マサ子 (昭27年卒)

八月六日、突然の訃報に接し、夢かと驚きました。

関東同窓会(六月二十一日)の帰路、羽田空港に向かう土居平治さんをクラスメイトと共に、山の手線のホームで「今回は十一月の竹田会の際に、逢いませうね」と明るくお別れしたのがつい先日でしたので、信じられませんでした。

昨年より田北会長の後任として、同期の土居平治さんが、竹田高等学校の同窓会会長に就任なさいました。

母校の二年後に迎える創立百十周年に向けて、母校本家の改修修繕請方棟梁としての意気込みは並々ならぬものでしたし、関東同窓会が毎年開催されているのに、竹田が隔年なのは……とか、いろいろ見直さなくてはと、大変意欲的でした。

また、佐藤会長から伺ったことと、「大分県の高校の中で、関東同窓会に二百人以上が集ま

るのは、上野ヶ丘、中津南と竹田の三校だそうだと、嬉しそうにクラスメイトに話されていた顔が、印象的でした。

同期の男性達は、「関東同窓会に土居平ちゃんが、出席するのなら」と、例年のない良い出席率で、来年からも増えるだろうと楽しみにしておりましたのに。

昭和八年八月八日生まれの平ちゃん、古希の二日前に永眠なさいました。奇しくもお通夜の日が、誕生日だったのですね。

独力で事業(L・Pガス販売業)に成功され、同窓会会長の他に同期の竹青会会長はもとより、大分県教育委員長をはじめ、L・Pガス協会会長等々、数多くの要職につかれ、それに将棋連盟の会長までも……。

ご多忙な日々を送っていらしたのですね。お元氣そうにお見受けしましたが、お疲れだったのですね。親友から「もう、名誉職は断り、ゆっくり行こうよ」と、言われていらしたのでは無いのでしょうか? でも、平ちゃんは「まだ、もう少し」と、頑張っていたのですね。

承りますれば、ご葬儀の参列者は、二千人を超えたそうですね。弔辞を読んだ人は十一人もとか。平ちゃんのご人徳と社会に対する影響力の大きいですね。

お人柄は、機知に富み、いつも飄々として、会話の中で人を楽しませる達人でした。

「平ちゃん、平ちゃん」と、誰からも慕われ、尊敬された平ちゃん。

お別れするには少し早過ぎましたけど、優しいご両親のおそばで、どうぞ、ごゆっくりお休み下さいませ。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。



瀧廉太郎没後100年記念事業

楽聖瀧廉太郎は、明治36年(1903年)6月29日に23歳という若さで亡くなり、平成15年は没後100年という節目の年となります。

瀧廉太郎の偉業の顕彰、「音楽のまち竹田」としての文化の継承のために「瀧廉太郎没後100年記念事業」を実施しています。

大分県竹田市



廣瀬武夫百年忌祭のお知らせ

廣瀬武夫中佐が旅順港外で亡くなられてから、来年の3月27日で100回忌となります。廣瀬中佐と杉野兵曹長との話は米国でも上司と部下の鏡であると高く評価されており、人間的に大変優れた人物であったことは、後年の研究で明らかにされています。嘉納治五郎師も若き廣瀬中佐の才能を惜しみ講道館に遺影を残されていますが、この他多数の書簡も有り、文武両道に優れた郷土の先輩・廣瀬武夫を永く後世に伝えることを目的に、2004年3月27日に百回忌を予定致しました。皆様のご協賛をお願い申し上げます。

この機会に境内の一部改修も行いますので、皆様の浄財をご寄付頂きたいと存じます。複数口のご協力を賜りますれば幸甚です。

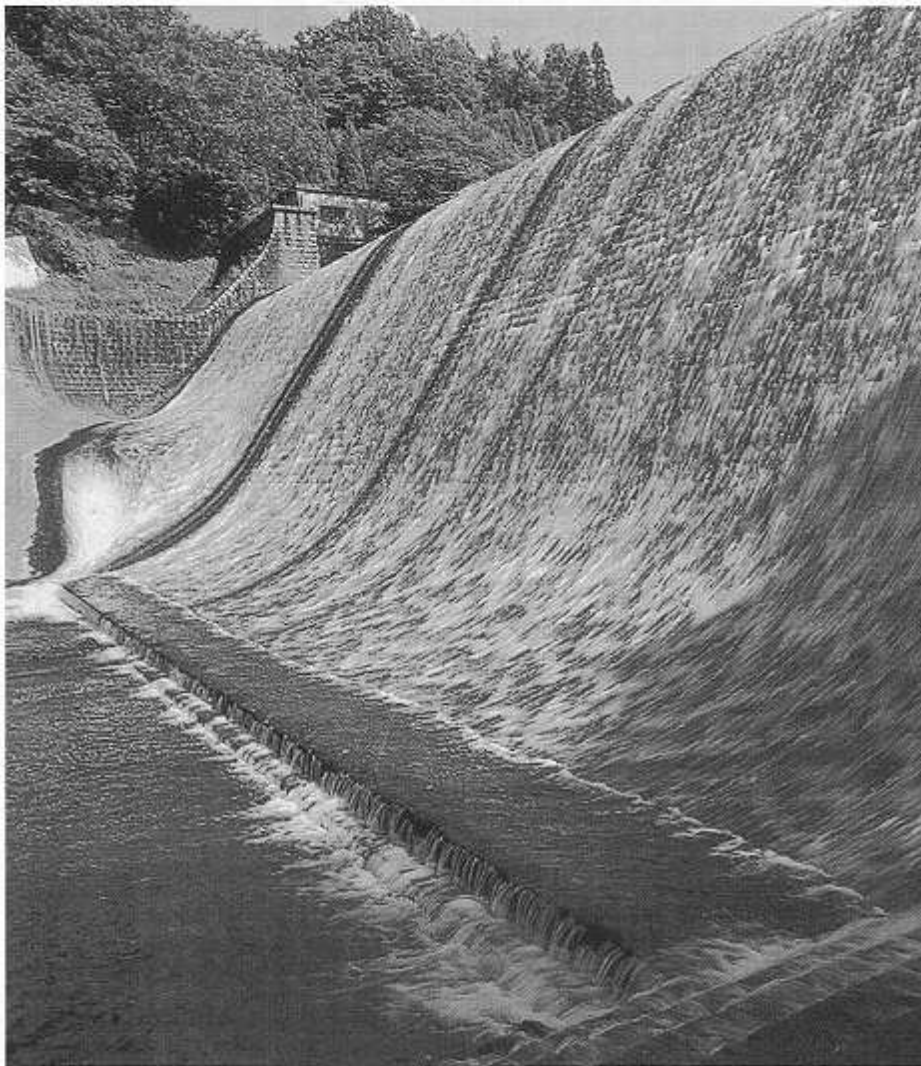
- 個人 一□ 2,000円
- 団体 一□ 10,000円

郵便振替 廣瀬武夫百年忌祭奉賛会 宛
口座番号：(竹田郵便局) 0117-2-111955

廣瀬武夫百年忌祭奉賛会
竹田市商工会議所・会頭 姫野 勝俊
電話：0974-63-3161

ふるさと名所紀行

～白水ダム～(上)



白水ダム

今回は近年、日本で一番美しいダムとして脚光を浴びるようになった「白水ダム」を竹田市岡の里事業委員会発行の「白水ダム物語」から抜粋してお届けしたいと思います。

県道竹田高千穂線の次倉入口バス停から入り込み、山道を進んでいくと小振りな井路伝いに進んでいることに気づく。次倉井路である。

やがて、「日本一美しい白水ダム」これより六〇〇m先の看板が道路脇に立っているのが目に入る。そこから先、ダムに至るまでの道は車での通行は禁止されている。看板の横には無人販売所があり、年の瀬の頃には黄色いカボスが並べられていた。買う人がいるのかどうかわからないが料金は書かれていない。

看板に従い、もしも車で行ったら離合どころかちよつとでもハンドル操作を誤ると脱輪してしまいそうな細い道を下つていくと、道ばたに湧水を飲めるようにしているところがある。その傍らには「マムシに注意」の看板がおもむろに立てられている。なるほど薄暗くてじめじめした感じはマムシ好みの場所である。それからさらに歩を進めると木立の向こうから、かすかにではあるが轟々と水が流れる音が聞こえてくる。

やがて木立の間から湖面が見えてくる。白水ダムである。最近になってこのダムは、流水の織りなす様子の美しさと、ダム自体の造形美ゆえに各方面から注目されるようになった。ダムと言うにはいささか小振りである。正式には「白水溜池堰堤 水利施設」という。ダム年鑑というものがあるそうだが、そこには堤高一五m以上がダムとして掲載されているらしい。白水ダムは堤高一三・九mであるから正確にはダムではなく、あくまで溜池なのかもしれない。しかし、白水ダムという呼び方が既に市民権を得てしまっているかのような観がある。

轟々という音の源にたどり着くと、滝のように水がダムの堰堤を流れ落ちる様に思わず息をのむ。堰堤からあふれ出た水は、白い波となって流れ落ちていく。堰堤のほとりに石碑があり、さらにその下に小さな祠がある。それに手を合わせてから、ダムの底部に続く石段を下りてゆく。

このダムを正面から見ると、堰堤からあふれ出る水がさざ波のようになり、緩やかな弧を描く壁をカーテンのように滑り落ちてくる。はじめは小さな波が滑り落ちるにつれてだんだん



大きくなり、やがて落ちたら消えていく。その繰り返しが続くと続く。近づいてみるとカーテンと言ふよりはまるで魚の鱗のようである。波ができ、泡だつて見えるのはダムを構成する目の粗い石のせいであろう。また、熊本城の石垣を思わせる「武者返し」のようになった壁を滑るように流れる右岸(上流から下流を眺めて右側を右岸、左側を左岸という)の流水は滝滑りで有名な九重町の竜門の滝をどことなく思わせる。これは水が弧を描いて滑り落ちていくだけではなく、その水に横の流れが加わるように傾斜を作ることによって流速を弱めているのである。

(以下次号)

情報 たけた Information
Now in Taketa

故郷情報をお届け
してみました

(竹田市提供「広報たけた」より)

9月18日に行われた、第8回竹田直入地域市町合併協議会において、新しい「市」の名称を全国の皆さんから募集することが決定しました。

話し合いが続けられていた現在の1市3町の名称(竹田市、荻町、久住町、直入町)についても、新しい市の名称として応募することができることになりました。多くの皆さんに参加していただきながら、末永く皆さんに親しまれ愛される新しい市の名称が、決定されることを願っています。



新しい「市」の名称を募集します!!
市町村合併 みんなで考えよう! 未来のたけた



会員の皆様へお知らせ!!

第十八回 関東同窓会

ご案内

- 日時 平成16年6月12日(土)
受付 AM11時30分開始
- 場所 ホテルセンチュリーハイアット 桃山の間

〒878-8555

大分県竹田市大字会々1650番地竹田市役所内 竹田直入地域市町合併協議会事務局 宛

FA X 63-9540
ホームページ(応募専用フォーム)
<http://www10.ocn.ne.jp/taketao/>
Eメール taketao2@axel.ocn.ne.jp

当番幹事

第十五期(昭38年卒)
第二十五期(昭48年卒)

◎竹田会

- 平成15年11月7日(金)予定 PM6時
- 中野サンプラザ14F 銀河の間

◎竹楽

- 平成15年11月14日(金) 11月16日(日)
- 地元竹田市にて 盛大に開催

地元竹田市では、11月14日(金)から16日(日)まで3日間仄かな明かりが城下町を包むイベントが開催されます。15日の中日は午後6時より、古琴の奏者・伍芳さんを招き、「瀧廉太郎を偲ぶ街角コンサート」が武家屋敷通りの特設会場で予定されています。入場は無料。

訃報

慎んでお知らせ申し上げ、心から冥福をお祈り致します。

物故者御芳名

- 得丸 等様(昭10年卒) 平成15年1月 没
- 本田 益雄様(昭28年卒) 平成14年4月28日 没
- 佐久間香代子様(昭34年卒) 平成15年3月22日 没
- 岡部 三慧様(昭33年卒) 平成15年3月28日 没
- 真田 次磨様(昭24年卒) 平成15年6月19日 没
- 三宅 英一様(昭24年卒) 平成15年7月13日 没
- 土居 平治様(昭27年卒) 平成15年8月6日 没

あとがき

会員の皆様の強いご要望に従い、会報臥牛の発行を今後は従来通りの年2回(5、11月)に致しました。皆々様の格段のご支援を期待致しております。

委員一同

※「投稿」をお待ちしています。

若い世代の皆様、「クラス会情報」や「特別寄稿」等々、ご投稿を特に期待しております。



・投稿内容

- ①クラス会情報 ⑤詩歌・文芸
- ②故郷の便り ⑥会員の催し
- ③海外便り ⑦会員消息
- ④会員の語らい ⑧その他

・連絡先

〒102-0083
東京都千代田区麹町一丁目八番地 JFNセンター八階
㈱エフエム大分東京支社
佐藤 毅士 宛
(広報委員長)

TEL 03-3239-7281
FAX 03-3239-7280